

ダニ抗原による アレルギー性鼻炎の舌下免疫療法について

—はじめに—

1)2015年11月より、**コナヒョウヒダニ**、**ヤケヒョウヒダニ**に対する**舌下免疫療法（減感作療法）**ができるようになりました。

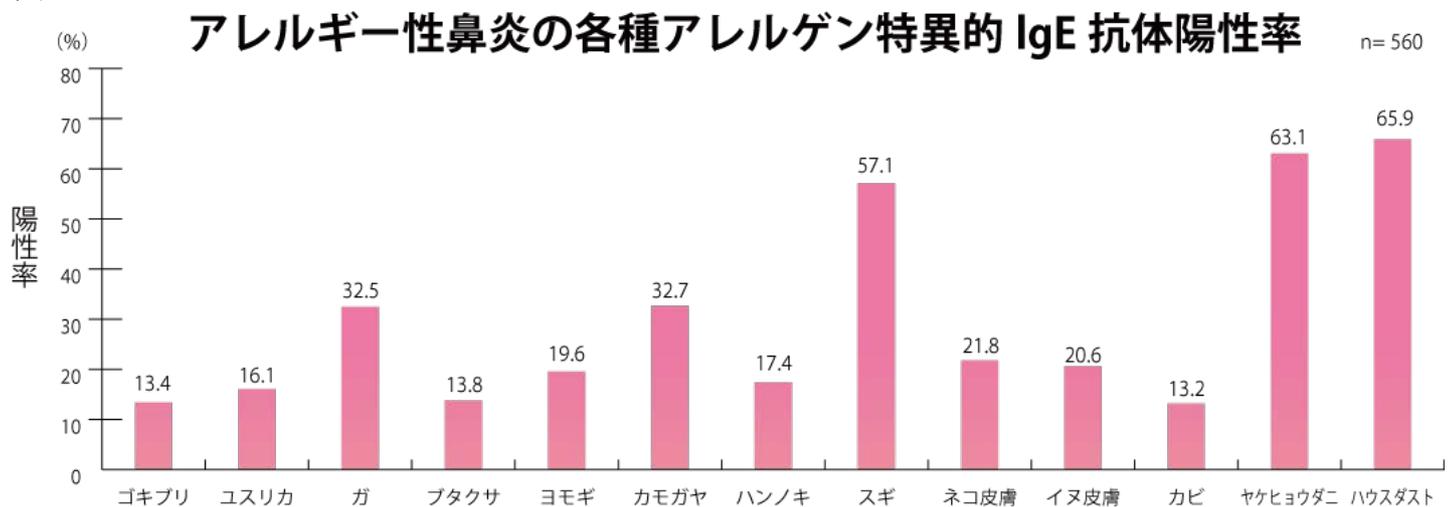
2)コナヒョウヒダニ、ヤケヒョウヒダニは**ハウスダスト（家塵）**の大部分をしめる抗原（アレルギーの原因となる物質）で、成人の通年性アレルギー性鼻炎*の**約60%**がダニ抗原に感作されているといわれています。（図1）

3)本治療はダニが原因のアレルギー性鼻炎の患者様を対象に、抗原（ダニの抽出液）を**少量・長期投与すること**で、鼻汁、鼻閉、くしゃみなどのアレルギー症状を緩和する療法です。

通年性アレルギー性鼻炎：

くしゃみ、鼻水、鼻づまりなどアレルギー症状が季節を問わず現れる疾患のことで、2013年のアンケート調査の結果、**日本人の4人に1人**が本疾患であることがわかりました。

図 1



—診断、治療の実際—

○対象患者

ダニ抗原によるアレルギー性鼻炎の患者

●禁忌（治療が受けられない患者様）

- 1) 本剤によるショック歴のある方
- 2) 重症の気管支喘息の方
- 3) 悪性腫瘍、免疫系に影響を及ぼす全身性疾患（自己免疫疾患、免疫複合体疾患、免疫不全など）

●慎重投与

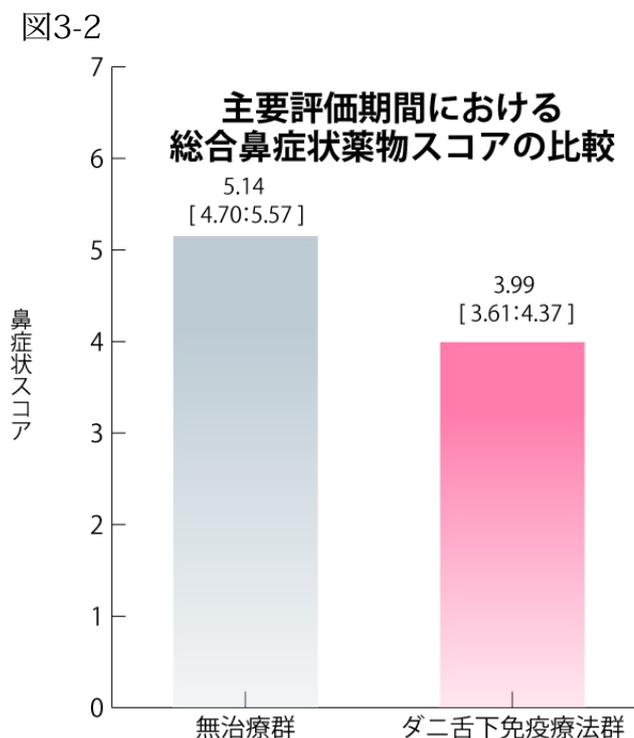
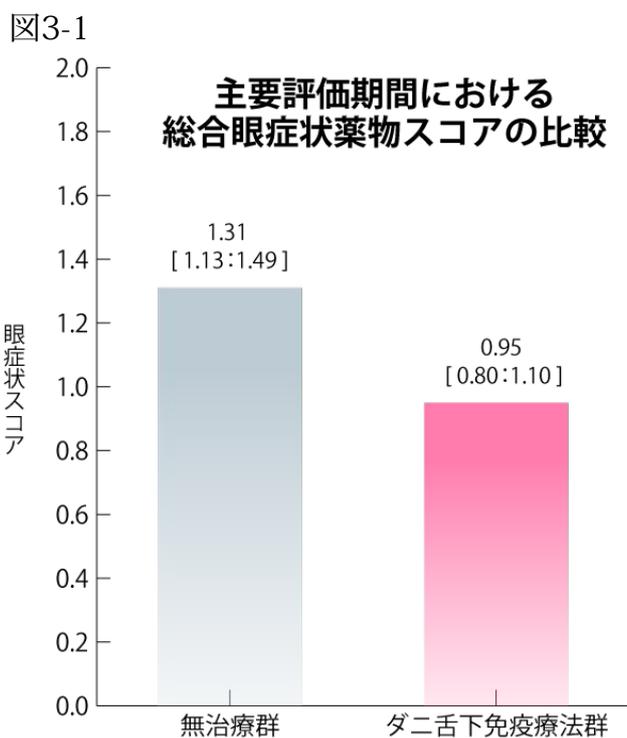
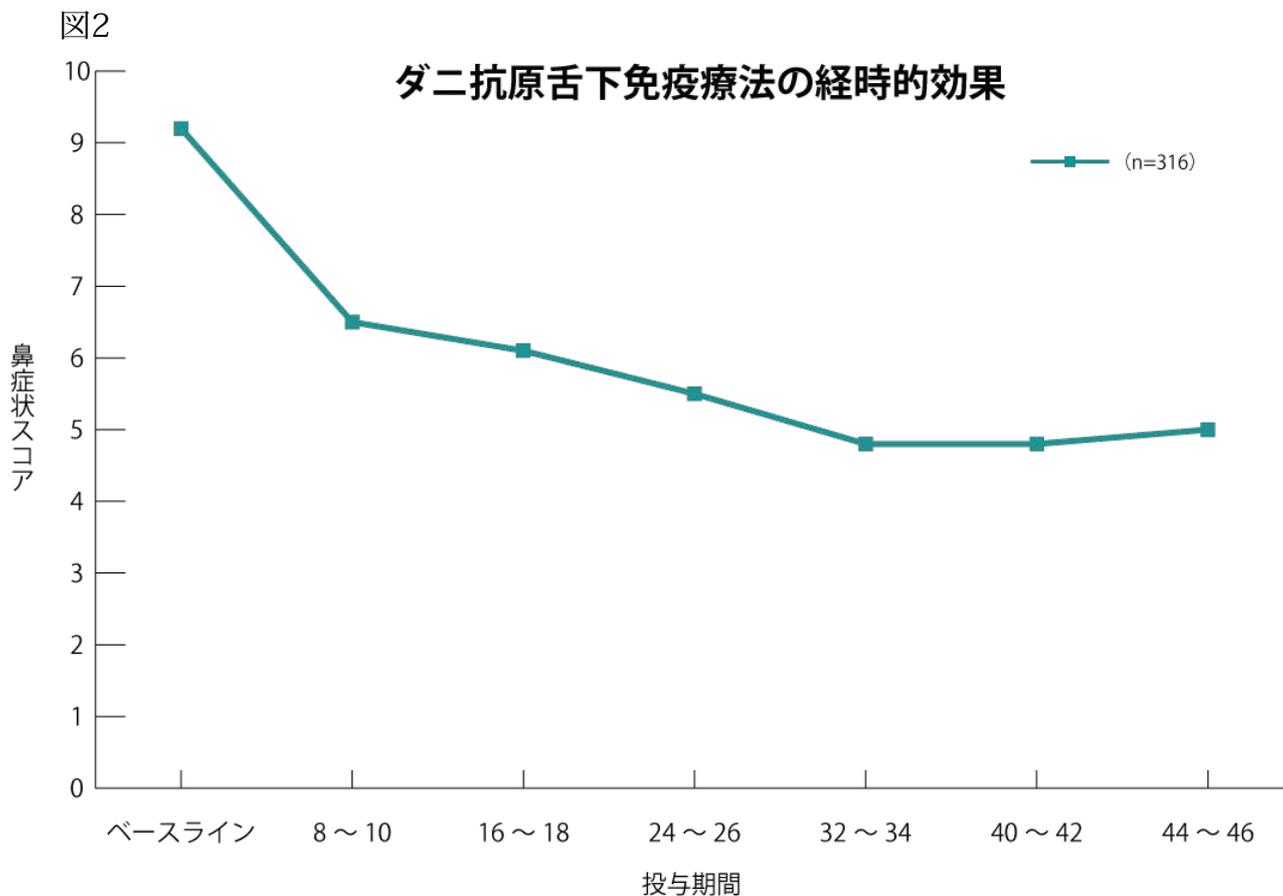
- 1) アレルゲンエキスによる診断・治療によりアレルギー症状を起こしたことがある方
- 2) 気管支喘息の方
- 3) 65歳以上の高齢者
- 4) 妊婦、産婦、授乳婦（妊娠中、授乳中の安全性は確立されていない。妊婦、妊娠している可能性のある婦人には治療の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与）
- 5) 抜歯後などで口内炎のある方
- 6) 血圧の薬（ β 拮抗剤）、抗うつ剤（三環系）、抗パーキンソン病薬（モノアミン酸化酵素阻害薬）などを内服中の方
- 7) 全身ステロイド薬の投与を受けている方
- 8) ダニ以外のアレルゲンに対しても反応性が高い方
- 9) 小学生以上の児童（保護者のサポートが必要）

●ほかの舌下免疫療法との併用

副作用の発現が増加する可能性あり、注意が必要。

—治療効果—

- 1) 鼻症状スコアの推移（1年間）（図2）
- 2) 鼻症状・眼症状スコアの変化（1年間投与後との比較）（図3-1、図3-2）



—検査・診断—

通年性の鼻アレルギー症状があること。
血液検査でダニ抗原特異的IgE値が高値であること。

—治療—

- 1) 舌下治療薬（錠剤）を処方します。初回は院内で服用していただきます。
- 2) 2日目以後は自宅で服用していただきます。

*本治療と並行して、室内や寝具などを掃除機などで清潔に保ちアレルゲンを回避することにより、効果改善効果を高める可能性があります。

—服用方法—

- 1) 1日1回、錠剤を舌の上に置き1分間程度保持したのち、飲み込んでいただきます。
- 2) その後5分間は、うがいや飲食を控えてください。
- 3) 服用前後2時間は激しい運動や入浴、飲酒を避けてください。
- 4) 以下の症状があるときは、医師に相談する。
(急性気道感染症、感冒、気管支喘息、口内炎、悪心・嘔吐など)

—治療を受けるにあつたての確認事項—

- 3－5年間の長期間の治療が継続できる。
- アナフィラキシーショックなどの副作用が起きる可能性や、起きた際の対処法を理解できる。
- すべての患者様に効果が期待できるわけではないことが理解できる。
- 治療を終了したのちに、時間の経過とともに効果が弱くなる可能性があることが理解できる。

<舌下免疫療法の作用機序について>

抗原を舌下に投与すると、粘膜内のランゲルハンス様細胞などの抗原提示細胞に取り込まれ、プロセッシングされた後、細胞表面に提示されます。これら抗原提示細胞は所属リンパ組織に移行後、Th1やTregを誘導し、Th2の機能を抑制します。

このようなT細胞バランスの変化によりアレルギー反応が抑制されると考えられています。

【用語解説】

抗原提示細胞：

白血球の単球から分化した細胞。T細胞を活性化することにより、体内で異物を除去する役割を持つ。

プロセッシング：

抗原が細胞内で小さなペプチドに切断されること。

T細胞：

リンパ球（白血球の亜群）の70%を占める細胞。骨髄で産生され胸腺で分化して末梢血液に出ていきます。免疫をつかさどる細胞で、機能によりヘルパーT細胞、細胞障害性T細胞、制御性T細胞、サブレッサーT細胞などに分類される。

Th1：

ヘルパーT細胞の亜群の一つ。サイトカイン（液性因子）を放出し、細菌やウイルス、腫瘍の排除を行う細胞。

Treg：

免疫の過剰反応を抑制する働きを持つ。制御性T細胞のこと。

Th2：

ヘルパーT細胞の亜群の一つ。サイトカイン（液性因子）を放出し、いわゆるアレルギー反応を増強させる。

T細胞バランス：

Th1細胞とTh2細胞は互いにバランスを保っているが、この均衡がTh2細胞側に傾いたとき、Th2サイトカインが過剰に産生され気管支喘息やアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患が生じる。